

2. 呼吸器病センター 呼吸器内科

呼吸器内科部長 飛野和則

2020年は、10名のスタッフと4名の専攻医で診療にあたりました。また、2020年7月末でスタッフである棟近が退職いたしました。棟近へのこれまでのご厚情、誠にありがとうございました。

さて、皆様ご存知の通り3月より当院でもCOVID-19の対応に迫られたため、総合診療科と協力の上、高齢者の誤嚥性肺炎は総合診療科で診療し、当科ではCOVID-19の診断・治療に最前線で当たる、という役割分担を行っております。ご理解のほど、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

入院を要した疾患の多くは、やはり肺癌と肺炎であり、間質性肺疾患と気道疾患（喘息・COPDを含む）がそれに次ぎました。コロナ禍の中でも、肺癌、喘息、COPDについてはそれぞれ新薬が登場し、間質性肺炎の診断法は徐々に新技術であるクライオバイオプシーに移行するなど、目まぐるしい進化が起きています。我々は常に知識と技術のアップデートを行い、最新の診療を提供できるよう努力してまいり所存です。学会発表、論文発表のアクティビティも昨年同様保っており、本年も10本以上の原著論文・症例報告を英文で発表することができました。

2020年はコロナ禍のため、「筑豊呼吸器RENKEIの会」を開催することができませんでした。ぜひ今年こそは、と考えておりますので、感染状況が安定次第またFace to Faceでお話させていただきたいと考えております。今後もこれらの活動を通じ、コロナ診療を含めた診療の質の向上、地域医療の発展、飯塚発のエビデンス構築につなげてまいります。

1) 入院患者疾患別内訳（2020年）

疾患	延べ症例数	疾患	延べ症例数
総数	1,493	間質性肺疾患	147
腫瘍性疾患 (内訳)	肺癌 743 転移性肺腫瘍 33 胸腺悪性腫瘍 12 転移性リンパ節 11 胸膜中皮腫 9	(内訳) 特発性・膠原病関連・薬剤性	129
		塵肺	3
		放射線肺炎	2
		その他	13
		気道疾患	128
		(内訳)	喘息 32 COPD 90 気管支拡張症 6
感染症 (内訳)	肺炎／肺化膿症 166 胸膜炎／膿胸 9 気管支炎 6 結核 6 その他の感染症 31	気胸	48
		胸水	14
		喀血・血痰	6
		睡眠時無呼吸	23
		その他	102

内視鏡検査（気管支鏡、胸腔鏡）実績表			
	2018年	2019年	2020年
総件数	438	454	334
観察、痰吸引、気管洗浄	427	434	321
直視下生検	26	27	17
末梢擦過及び生検	310	317	219
BAL	80	70	46
胸腔鏡	9	9	9
EBUS-TBNA	28	23	31
EBUS-GS	71	38	45
EWS 充鎮	4	2	2
マイクロ波凝固術	1	0	0
サーモプラスティ	3	1	0
クライオバイオプシー	10	24	24
バルーン拡張術 / ステント留置	2	0	1
悪性腫瘍に対する気管支鏡での診断率	86%(170/197)	84.6%(187/221)	85.6%(185/216)